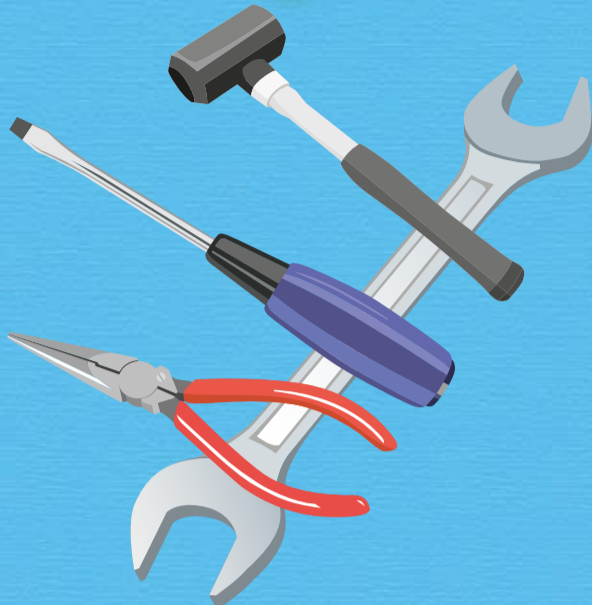


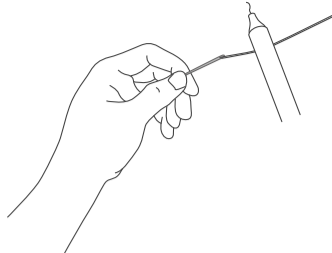
# DIY



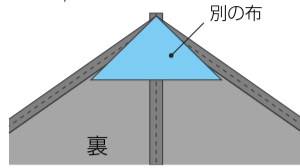
## つゆ先の糸のほつれ

骨と布をとめている糸が弱って切れた場合は、針と糸で簡単に直せます。糸は傘の色に合わせた丈夫な木綿糸を用意してください。

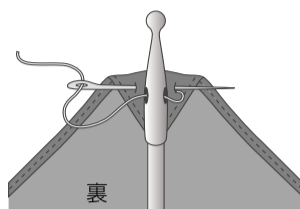
1 針に糸を通して2本取りにして玉結びを作ってから、糸にろうそくの口を擦り込む。こうしておくと、水はじきがよくなり、糸が長持ちする。



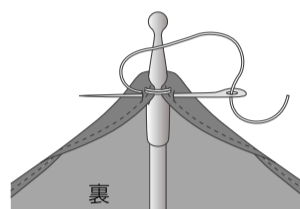
2 傘をたたみ、つゆ先の布の状態をチェックする。ほつれていれば縫い合わせ、布が弱っているようなら当て布をして補強するとよい。



3 先端を3~5mmほど内側に折る。内側に玉結びがくするように内側から針を通してつゆ先の穴に通す。その後は、折り返した布だけをすくい、つゆ先の穴に通すを3~4回繰り返す。

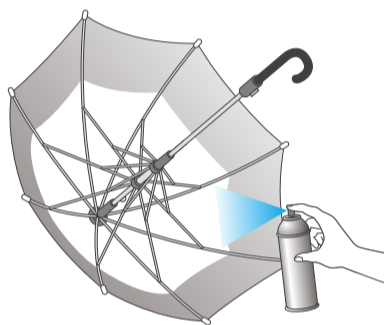


4 つゆ先を巻くように、先端の端と端をひっぱりながら3回ほど縫い合わせ玉結びを作るとめる。その後、折り返した布の部分を一针縫ってから糸を切る。



## 水はじきの低下

傘をよく乾かしてから開き、表面と裏側の両面にまんべんなく、しっとり濡れるくらい防水スプレーをかけて再度よく乾かせば、新品と同じくらいの水はじきが保てるばかりか、汚れ防止にも効果があります。防止スプレーを使う場合は換気のよい場所で行うこと。また新聞紙などを敷いて作業すれば周囲を汚さず済みます。

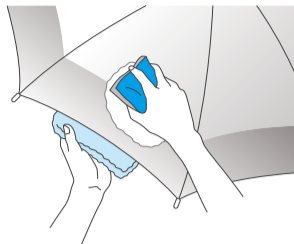


## 靴と傘の修理

### One Point Advice

汚れには中性洗剤が効果的です。

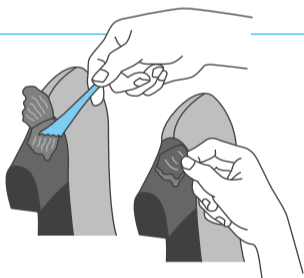
傘の汚れが目立つようになったら、裏側にタオルなどを当ててから、台所用の中性洗剤を薄めた液をつけたスポンジで洗いましょ。折りたたみ傘の場合は内側も洗いぬいで。洗い終わったら、すすいでから水分を拭いて、よく乾燥させましょ。仕上げに防水スプレーを使うとさらに新品に近付きます。



## 靴の補修法

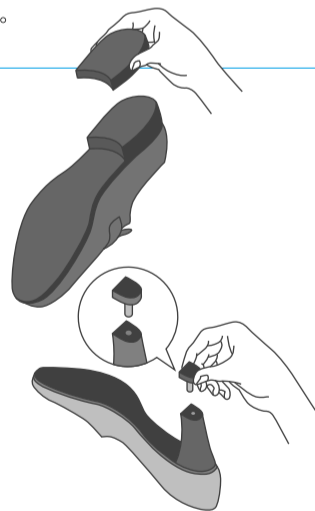
### かかと部分の革のやぶれ

パンプスなどのかかと部分の革がやぶれた場合、そのままにしておくとやぶれた革がはがれて修繕が難しくなるので、早めに修理ましょ。やぶれの周辺の汚れを落としてから、やぶれた部分の革をていねいに伸ばし、透明タイプの合成ゴム系の接着剤をかかとと、やぶれた革の両面に薄く塗り伸ばましょ。その後、触ると指紋がつくぐらいに接着剤が乾いたらやぶれた革を伸ばしながらかかとに貼り合わせ、しっかり密着させるようにましょ。修理を終えたら市販のヒールプロテクター(透明の接着フィルム)を貼って補強しておけば安心。かかとはキズつきやすいので、このフィルムをやぶれ防止に使うのも方法です。



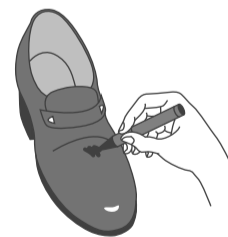
### 靴底のヒールの擦り減り

交換用のラバープレートとゴム系接着剤、クギがセットになっている靴底補修キットが便利。これは、紳士靴からハイヒールまで靴の種類やヒールのサイズに合わせて各種揃っているから、靴に合わせて選ぶことができます。靴底をきれいにしてから、ヒール部分と交換用のラバープレートとの両方にゴム系接着剤を薄く塗り伸ばし、指紋がつくぐらい乾燥したら密着させましょ。その後、クギを打って補強すればOK。ハイヒールを直す際は、擦り減ったゴムをペンチなどでつまんではずしてから、ピンをついたトップリストを差し込んで補修ましょ。



### 革靴のキズ、こすれ

クレヨンタイプの靴用傷かくして補修ましょ。これは、白、茶、黒系の10色セットで、ドライヤーなどで温めて練り合わせれば調色もできるので、幅広い色の靴に対応できます。使い方は靴の汚れを落としてから補修剤をキズ部分に擦り込み、はみ出した箇所のみを乾いた布で拭き取るだけと簡単。ただし、表面にエナメルなどでコーティング加工してあるものや、スウェード、セーム革には使用できません。

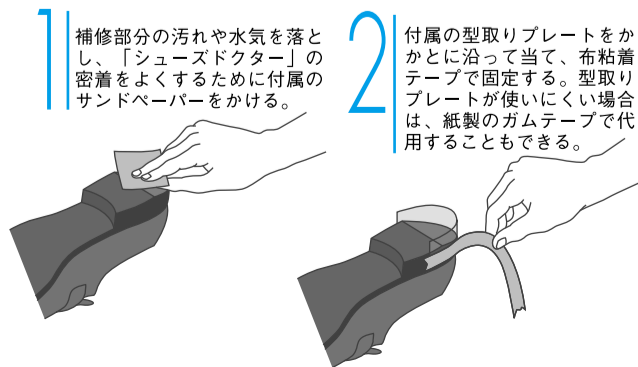


### 靴底一体成型タイプの擦り減りと割れ

かかと部分の片方が擦り減ったり、靴底に割れ目ができてしまった場合、かかと部分を交換するの手ですが、カジュアルシューズやスニーカーなど靴底が一体成型になっているから、かかと部分のみの交換ができないタイプの靴でも「シューズドクター」という靴底専用の補修剤で修理することができます。これは固まるとゴム状の弾性体になるから、革やゴム底によく密着ましょ。色は白と黒があるので、靴に合わせて選んでください。

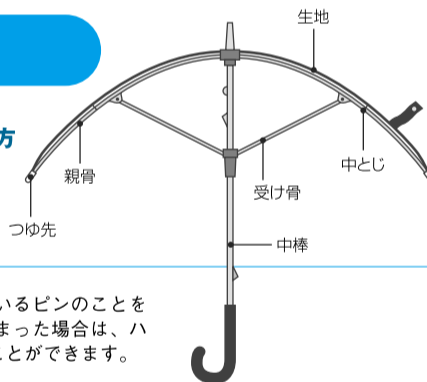
3 擦り減った部分に補修剤を絞り出し付属のヘラで伸ばましょ。この補修剤は3mmの厚さが固まるから、擦り減りが深い場合は、3mm埋めたら24時間おいて次の日にもう一度塗る、を繰り返すようにする。

4 完全に固まったらプレートははずして、はみ出している部分をハサミで切り取る。



## 傘の補修法

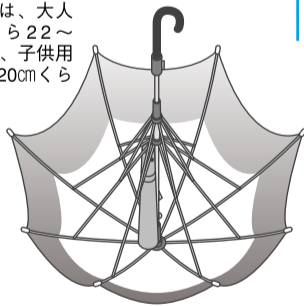
### 傘の部分の呼び方



### はずれたハトメ

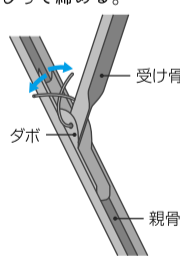
親骨と受け骨の接合部分のダボを止めているピンのことをハトメと呼びましょ。これがはずれてしまった場合は、ハトメのかわりに針金を使って修理することができます。

1 作業は傘を半開きの状態で行うこと。ワンタッチ傘の場合は、受け骨の内側につかえ棒(スリコギなどを利用してよい)をはさむとよい。つかえ棒の長さは、大人用なら22~23cm、子供用なら20cmくらい。



2 ハトメがはずれた場合、それに接合していた受け骨やダボも曲がっていることが多いから、まっすぐに直す。上や横からラジオペンチではさむようにして矯正するとよい。

3 ダボの内側に受け骨をはめ込んで穴を合わせ、4cmくらいに切った針金(18番か20番)を通す。針金は傘の中心に向かって曲げ、接合部分の内側でしっかり交差させる。余分な針金を切り落とした後、切り端を両側からペンチではさんでねじって締める。

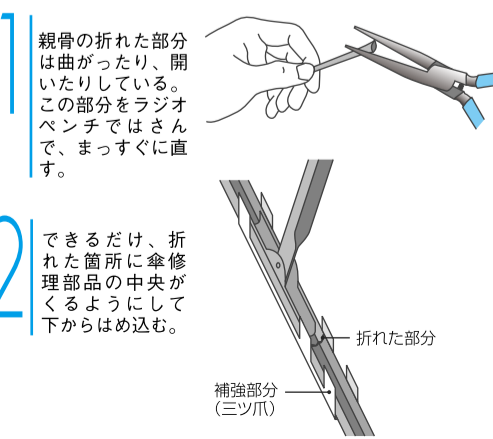


### 親骨の折れ

「三ツ爪」「四ツ爪」と呼ばれる傘修理部品で直ましょ。これには大、小のサイズがあるので、傘の骨の太さに合わせて選びましょ。作業は、はずれたハトメを直すのと同様に半開きの状態で行ましょ。また、折れた箇所に近い部分は布地を止めている糸を切り、楽に作業できるようにしてください。

1 親骨の折れた部分は曲がったり、開いたりしている。この部分をラジオペンチではさんで、まっすぐに直す。

2 できるだけ、折れた箇所には傘修理部品の中央がくるようにして下からはめ込む。



3 ペンチで傘修理部品の爪を片方ずつはさんで内側に90度倒してしっかり固定する。爪は両端を倒してから内側を倒すようにすること。

まず骨に対して斜めの角度からペンチを当て爪が斜めになるまで倒す。

傘を回して反対側からペンチを当て爪が90度になるまで倒す。

同じように反対側の爪も倒す。爪が90度まで曲がっていたらOKだが、もし固定が甘いようなら、爪をさらに内側に倒すとよい。

4 すべての爪を倒して固定したら、最初に糸を切ってはずれた布地を糸と針で留め直す。

